

松本俊介 洋画家。戦時下の貴重な記録や時局に抵抗した評論、不安をとらえた作品を遺し、**<敗戦>**直後に夭折。
まつもとしゅんすけ
明治天皇没・1912 = 東京渋谷に生まれる。

第一次大戦始1914 = 2歳：父が林檎酒造事業に参加、岩手県花巻に移住。

ベーリー条約・1919 = 7歳：町立花巻尋常小学校に入学。

原敬首相暗殺1921 = 9歳：
水平社結成・1922 = 10歳：父が盛岡の銀行創設に参加、岩手県師範学校附属小学校に転校。

治安維持法・1925 = 13歳：卒業し、県立盛岡中学校に入学した日、流行性脳脊髄膜炎で発病、聴覚を失い、1年遅れる。

金融恐慌・・1927 = 15歳：兄から油絵の道具を贈られ、絵を描き始める。

世界恐慌・・1929 = 17歳：中退して、兄に合せて、母と上京し、太平洋画会研究所に学ぶ。

海軍軍縮条約1930 = **18歳**：

満州事変・・1931 = 19歳：太平洋近代芸術研究会結成。雲光や麻生三郎らと交友、モディリアニに傾倒しデッサンの重要性を知る。
五一五事件・1932 = 20歳：谷中の茶房に集まる画家たちと赤薙会を結成。

帝人疑獄事件1934 = 22歳：北斗会に出品、NOVAに寄稿。

芥川直木賞始1935 = 23歳：*NOVA美術会展に出品して、同人となる。第22回二科会に「建物」が初入選。以来、都市生活者のさまざま
な姿をモンタージュした作品を描き、二科会解散まで連続して出品。

二二六事件・1936 = 24歳：松本順子と結婚し、松本家に入籍。*多くの文学者、詩人、画家の協力を得て、この年創刊された月刊誌{雑記帳}(14号で廃刊)は、昭和10年代の貴重な記録といえる。

日中戦争始・1937 = 25歳：長男誕生、翌日死亡。

アメリカン・ソーシャル・シーンの画家野田英夫やドイツ表現派の画家グロッスの作品に啓発され、都会の
風景と人間の生活が重層する画面をつくる。

第二次大戦始1939 = **27歳**：次男誕生。

大政翼賛会・1940 = 28歳：東京銀座の日動画廊で個展を開催。

日米開戦・・1941 = 29歳：戦時統制下に「生きてゐる画家」の一文を{みづゑ}に投稿して時局に抵抗し、
・・・・・1942 = 30歳：再び、日動画廊で個展を開催。この年の「立てる像」など作品の多くは、静謐な詩情のなかに昭和戦前期の
時代の不安な相貌をとらえている。

創価学会検挙1943 = 31歳：雲光、鶴岡政男ら8人と新人画会を結成。

敗戦・・・・1945 = 32歳：家族を疎開させ、長女が誕生。

新憲法公布・1946 = 34歳：*敗戦後、「全日本美術家に語る」の一文で美術家組合の結成を呼びかけ、

新憲法施行・1947 = 35歳：自由美術家協会に参加するなど、積極的に発言を続けたが、長女死亡後、肺炎を起し、

極東裁判決・1948 = **36歳**：次女誕生後、持病の気管支喘息による心臓衰弱のため没した。